

「日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負」

建築・都市環境工学科 鈴木啓悟

この度は、The teacher of the year に選出していただき、心より嬉しく光栄に思います。こうした表彰をいただくのは非常に久しぶりのことであり、率直に申し上げて驚きも隠せません。「今の大学生には何が響くのだろうか」「どうすれば本質が伝わるのだろうか」と、自問自答しながら試行錯誤を繰り返してきた日々が報われた思いです。

自身の原体験から生まれた「教示プロセス」

私の授業スタイルの根底にあるのは、自身の学生時代の反省です。私は学生の頃、講義の内容をその場で即座に理解することがあまり得意ではありませんでした。当時は理解を深めることよりも、まずは聞き漏らさないようにノートを取ることで精一杯だった記憶があります。教壇に立つ立場となった今、私は「当時の自分のような学生が、どうすれば無理なく本質を理解できるか」という視点を常に忘れないようにしています。自分が理解に苦しんだ経験があるからこそ、学習者がどのステップで躓きやすいかを想像し、それを解消するための教示プロセスを組み立てることに心血を注いできました。

ワークシートが繋ぐ「書く」と「聴く」のバランス

その工夫の一つが、独自のワークシート形式です。すべてを板書すると書き取るだけで終わってしまい、逆にすべての資料を配布してしまうと緊張感が薄れて眠気を誘います。そこで私は、重要なキーワードや図表の肝となる部分だけを空欄にしたワークシートを作成しました。「書く」という能動的な作業を残しつつ、説明に耳を傾ける「聴く」時間を最大化させるためのバランスを追求した結果です。ワークシートは電子データで公開していて、印刷して紙媒体として使用するもよし、タブレット端末上でそのまま書き込んでもよし、デジタルでもアナログでも、学生が最も学びやすい形を選択できるよう、データの配布方法にも配慮しています。昭和生まれの私としては、紙にシャープペンシルで書き込む感覚も捨てがたい魅力があると感じますが、時代の変化には柔軟でありたいと考えています。

90 分間の集中力を支える「福井の魅力」

90 分間という長丁場において、集中力を維持し続けるのは至難の業です。そこで講義の合間、ちょうど 40 分ほど経過したタイミングで、頭をリフレッシュするための「余談」を取り入れています。話題の軸は、私が愛してやまない「福井のグルメやスポット」です。「美味しいものが好き」という感情は、どの世代でも共通するものです。特に、とんかつ店「かつ義」の紹介をする際、かつて教えた教え子が「将来息子が生まれたら『かつよし』と名付ける」と豪語していたエピソードを披露すると、教室に柔らかな笑いが生まれます。こうしたちょっとした息抜きが、後半の講義に向けた良質なエネルギーになると信じています。

最後に

私の授業が皆さんの学びの一助となっていたのであれば、これ以上の喜びはありません。この結果に甘んじることなく、これからも授業には一切の手抜きをせず、時代の変化に合わせて「伝え方」を磨き続けていく所存です。